イエスは主なり

日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈祷運動である。

開心・静聴・充満・献身・奉仕　114

はじめに神は

創世記1:1-3

川野　直人

私とアシュラムとの出会いは、西南学院山の家におけるスタンレー・ジョーンズ博士との出会いから始まっています。既に40数年経過していると思うのですが、あの温和で深い洞察に富んだまなざしで、穏やかに神の国の福音を語られていたのが、強く今でも印象に残っています。以来、九州アシュラムでは今は亡き榎本保郎牧師の闊達な勧めや、マシュウズ師の穏やかな語り口、その他中央からは海老沢宣道師や、大石嗣郎師、後宮俊夫師など九州アシュラムは多くの先人達によって導かれて来ました。又、九州アシュラムの継続には長年委員長を担ってこられた、山本繁夫師の事も忘れる事は出来ません。

私はその頃、教会と付属幼稚園、更に社会福祉法人等に関わり多忙を極めていました。多忙であればあるほど、神の助けと聖霊の満たしは必要でした。多忙な中で、人間の努力や熱心に限界を感じ、ただみことばを求め、御霊の満たしをと渇望したものでした。九州の各地から同労の友や、同信の友の交わりは一年一回であれ、それは職業と身分や様々なしがらみから解放されて、ただ霊の家族としての親しさ温かさは、教会とはまた違った交わりでした。一年一回の里帰り、魂のオーバーホール等と言いながらアシュラムに連なってきた次第です。長い伝道牧会の間には、人に言えない苦しみや悩みが伴うものです。どこでも語れない、こぼせない、そう言った重圧からアシュラムでは解放され、ファミリーでの互いの執成しの祈りの交わりを通して、主は癒して下さったのでした。「みことばと祈り」、信仰の基本はこれだと言われながら、単純なこの基本がなかなか軌道に乗らない現実の悩みは、みな共通しています。それほど私たちは単純になれない、複雑で混沌とした時代の中に歩んでいます。全ての働きにおいて、効果と結果、効率とスピードが問われる、そこで信仰の世界ですら、現実社会のそのような流れに、押し流されようとするのです。「始めに神は、」という聖書の語りかけが、いつのまにか過去の響きとなり、現実の響きとなり難い。そのような時代の中で改めて、「私達はまず静まって」どのような時でも、どのような場合でも、神のみ言葉から始まると言う事が、今もっとも緊急、重要な課題ではないかと思うのです。日本におけるアシュラム運動が、教派を超えてますます盛んになる事を心から願ってやみません。

（九州アシュラム委員・日本バプテスト連盟　香住ケ丘教会協力牧師）

父・母の思い出

（ユニス・マシューズ）

スタンレー
ジョーンズ
コーナー

〔この講演は第33回関東アシュラムで収録したものです〕

ジョン大石兄弟が、私の母メイベル・ジョーンズの思い出を話すようにと申されました。兄弟は母のことを余りご存じではないと思います。しかし、今先ず父のことを話し、彼に敬意を表したいと思います。父ジョーンズは愛情豊かで考え深く、思いやりがある人でした。父が自著〝上昇のうた〟（ソング・オブ・アセンツ）を書いている時のことでした。その頃、私は父の話を皆タイプして出版社に渡す仕事をしていました。それはコンピューターが使われる以前のことです。父が書いた原稿をタイプし、それを訂正してまた打ち直す作業を繰り返していました。その〝上昇のうた〟の中に、父は「私の失敗」という一章を入れていました。私はその原稿を読んだ時、父が、自分は父親としては失敗であったと考えていたことが分かりました。私はすぐに父に手紙を書き、その原稿はタイプできない。「失敗」とは本当ではないと言ってやりました。父は実際に、いつも外に出ていて、家には居ませんでした。「家にいつも居ることが良い父を造るのではない。子と父の関係は量ではなく質の問題です」と書きました。父はそれを喜んで呉れたようでした。というのは、その章は結局本に入りませんでしたから。しかし、父が家に居る時は、その全時間を私のために費やして呉れました。

私が小さい頃には、父がしていたことを殆んど理解していませんでした。父がどんなに多くの聴衆を相手に話していたか、父がどんなに優れた話し手であったか、分っていませんでした。

私が大学を出た時、嬉しいことに、父は一年間、彼の秘書また同行者として働いて呉れないかと私にききました。私は父の提案を受け入れ、インドで丸一年以上父と共に旅行しました。私はこのことを嬉しく思いました。これこそ、私の父が父としてしたかったことでしたから。私は生まれて始めて、父を直近かに見ることができました。父としての姿だけではなく、人々の間で活動する公人としての姿でした。彼が如何に説得力をもつ有能な説教者であるかを知り驚きを禁じ得ませんでした。それは実に素晴らしい時で、私たちは互いに本当に理解し合うようになりました。

さて私の母メイベル・ロシン・ジョーンズを紹介したいと思います。彼女は外部に余り知られていません。それは彼女自身が選んだことでした。彼女はその名前によって得をすることを求めませんでした。しかし彼女は素晴らしい女性で、しかも個性的でした。その上、父のように世界的なレベルではなくて、一つの地域での有能な宣教師でした。母は父の働きをよく支えましたが、母は、それが自分の仕事や職務を変えてしまうことは許しませんでした。それ以外のやり方は、彼女の心に思い浮ばなかったのです。二人は共に宣教師であり、それぞれが自分の仕事を果していました。

私の母が果した働きを四つに分けて紹介したいと思います。先ず教育者として、次に宣教師として、次にカウンセラーとして、そして本当に人間らしい人として、です。母は我々が未だ学校にいるはずの年令の時に、教え始めました。彼女は十六才の時に教え始めています。彼女は祖父を助けるために、ミシシッピー河畔のアイオア州に行き、そこで教師また校長職を勤めました。お金ができると北部のアイオア大学に進学しました。

彼女の次の重要な教育者としての職務は、二五才の時、外国での全く文化の異なった所で与えられました。すなわち、インドの中部、ガンドアで初めての女学校開設の働きのために派遣されました。それで母は、ごく短期間に、ヒンズー語の文字と言葉とを学ばなければなりませんでした。そしてわずか二・三年の中に、彼女は、北のラクナウで新しく教師養成の学校を開設することになり、ラクナウに移りました。

そこで彼女は私の父と出会い結婚しました。その養成学校は、父が牧師をしていた教会のすぐ向い側にありました。

（次号へ続く）

アシュラム生活最良の友
アパ・ルーム
海老沢 宣道 編集
（年6回刊行の日々の糧）
国際的、超教派的、霊的な読物
価300円、〒90円、年2,340円（〒共）
申込先　〒256-0812 小田原市国府津3-11
振替口座　00110-7-193834 アパ・ルーム
電話番号　0465-48-2010
日本語版は創刊以来47年続行中

東京都目黒区中央町1-21-10
碑文谷教会気付
日本クリスチャン・アシュラム連盟

〈四十年の恵み〉

日本アシュラムの歩み(56)

海老澤宣道

＝日本独自のアシュラムを開催＝
…榎本保郎師を迎えて…

◇第八回関東アシュラムの集い

二年前に第七回が守られた時、スタンレー師は「今後私が来日しない年にも皆様でアシュラムを開催することを望む」と言われたので、NCC内の同委員会は、関東地区委員の岡田実、満丸茂に話しかけ、十数名の運営委員を選任し、一九六九年四月二十八・二十九日にかけて飯能市の国民宿舎覧山荘で、講師に今治教会の榎本保郎師を招いて開いた。標語は「無くてならぬものは多くない」(ルカ十章42)とし、開会礼拝(司会大石、奨励高瀬)、開心の時は前半六分団で、後半全体(司会海老沢)、続いて講演「一粒の麦地に落ちて」(榎本、司会渕江)、夕食後立証の時(参加者二名と榎本)、晩祷(司会福山)、沈黙の時(連鎖祈祷)。第二日早朝に静想の時(榎本)、朝食後、聖書の時(本田清一)分団の集い。午後、充満の時(司会岡田、奨励榎本)で閉会。参加者は四十五名の少数であったが、聖霊の人であった講師の話に一同大きな霊感を受け、来年もぜひ上京して頂きたいとの強い要望があった。

◇第九回関東アシュラム

一九七〇年十一月二十三～二十四日東京奥多摩の鳩の巣荘で、再び今治から榎本保郎師を迎え、「僕きく、主よ語り給え」(サムエル上三章九)を標語にして、開催された。今回は満丸茂委員長以下十五名の委員が全ての準備と進行を担当した。開会礼拝の奨励(満丸)、オリエンテーション(榎本)、開心の時も前半は分団で、後半は全体で(榎本師)、続いて講演も同師。「私たちの祭壇」(列王上18章30、ヨハネ伝15章10)、夕食後の立証(司会海老沢)には二名の証しあり、「晩祷の時」(指導榎本)で夜間の連鎖祈祷に進み、第二日早朝「静想の時」(指導榎本)、朝食後の聖書(大久保)分団の時、午後「充満の時」(司会渕江、指導榎本)で一同大いに恵まれ互いに感謝を述べて散会。参加者は六十七名に増加。いかなる時にも神の御声に聴き従って行こうと誓い合った。

★予告★

◎第11回バルナバ・アシュラム開催
・一九九八・5／3(日)～5／5(祝)
・東京都日野市ラ・サール研修所
・助言者　原田謙牧師(ホリネスの聖餐長)
・主　題「信仰と聖霊に満ちた人」
・会　費　一八、〇〇〇円
・申込所　三五四-〇〇二一　長野県岡谷市
　長地小萩　石神　勇
　電話・FAX　〇二六六-二六-一〇八八

◎第18回日本アシュラム全国理事会
・4／29～4／30
・於国際文化会館(六本木・東洋英和前)

◎第6回日本アシュラム・セミナー開催
・6／1～6／3
・於山崎製パン箱根山荘

▼S・ジョーンズ不朽の名著出版

『震われない御国と不変の人格』
渕江淳一・渕江千代子共訳
B6四五〇頁、予定価二、五〇〇円
発売所　キリスト教新聞社
発行所　日本クリスチャン・アシュラム連盟(発売予定六月上旬)

S・ジョーンズの晩年の信仰思想を自ら集約した不朽の名著、アシュラムの精神、神学を知りたい方の必読の書。

○申込先　連盟事務所　大石宛

▽お便り

横浜市　岡村教会員　藤山クニヱ

「インド途上のキリスト」を以前から読みたく思っていたので、こんなに早くお送り頂きとても嬉しいでした。父親を昨年亡くした甥がインドに行って見たいと母親に言う由、何か深く教えられるものがあるのでしょう。その甥の救いを祈っています。六年前初めて参加した城北アシュラムで高橋兄の親友谷口兄と一緒でしたが、翌年二月には谷口兄は召天されました。その奥様が隣りに住まわれて、今、共に教会に集い支えられていて感謝です。

「神に就ての黙想」、「祈りの友」誌有難うございました。「シリヤの軍人を医す」の記事は、神が本当に居られ、私の祈りに答えて下さることを知らされ、忘れ難い所です。二十年も前、教会から離れて十年の頃、近所の子供が教会へ行く日曜日、息

理事長　海老澤宣道
編集人　白川鄭二
発行人　大石郎
定価　一部60円　〒80円

子も行きたいと言いました。戻る機会を探していた私にとり、神の時でした。礼拝に出て聖餐に与かり、喜んだのも束の間、主人が子供達の七五三の祝いに鎌倉へ行くというので、私は悩み苦しみ、主に訴えて出席した礼拝の説教がこの列王紀下五章でした。真に主が働いて「安んじて行きなさい」と。あの時以来、主はいつも共にいて下さっています。

すぐに本をお送り下さり、心からお礼を申しあげます。先生が益々主のお取扱いを受けられ、ご健康が祝され、用いられますようにお祈りいたします。どうぞ私のため、救わるべき魂のためにもお祈り下さい。

（海老沢師へのお便りから要約）

信仰生活43年の私の証し

第35回関東アシュラム「福音の時より」―三―

斎藤　剛毅

〔第一一三号よりの続き〕

主イエスは「私を信じる者はたとえ死んでも生きる」と言われました。死後の命、或いは現在を本当の充実をもって生きるという、その教えの意味を知りたいと思い、私は家から歩いて三分ほどの距離にある板橋区の常盤台バプテスト教会に足を踏み入れたのです。私が教会に足を向けるきっかけを作ったのは松村秀一牧師の私への呼び掛けでした。私は見知らない人へのちょっとした呼び掛けが大切だと言うことを松村牧師から教えられました。私が東上線の常盤台駅に下車した時、その方は松村牧師であることが後で分かったのですが、ある人に「君は付属か」と尋ねられました。「ハイ、（教育大学）付属（高校）に通っています」、すると「私は常盤台教会の牧師だよ、教会にいらっしゃい」の一言です。「ハイ」と言ったのを覚えています。常盤台教会の前の果物屋さんの前でもう一度お会いしました。「やあ君か。教会へいらっしゃい。」この二言の呼び掛けが私が教会に行くきっかけになりました。

初めて教会の礼拝に出て、説教者の顔を見たとき、「ああ、あの方であった」と思いました。それは松村秀一牧師でした。その後先生の説教を何度か聞きました。そして、天地万物の創造者としての神の語りかけを聞きました。人間は神のご計画によりこの世に生まれて、神の真理を聖書から学んで、神の愛の中で神の愛を実践して生きるように創造された、ここに生きる意味があると語っておられました。神さまは一人の人間にご計画をもっておられる。それを祈って、神から与えられている使命を発見せよ。信仰に生き抜くときに、地上の旅を終えて神の国に帰って行くことができるということを、私は説教から、段々と学んで行ったのです。

それ迄の私は人生には生きる意味はないと、自分だけの判断をして、虚無の思いに捕われていました。私は八人兄弟の七番目ですが、〝生めよ、増やせよ〟という軍国主義的掛け声に乗って、母は生まれて来なくてもよい私を生んだのだ、というようなひねくれた考えをしていました。私は母に時々非常に強い言葉で語ったものです。「お母さん、何故僕を生んだのか。生まれて来ないでよい者が生まれて来てしまって、こんな苦労をしなければならない」と母を悩ませました。母は辛い、悲しい顔をしていましたが何も言いませんでした。

ある日、私が母の部屋の襖をそっと開けた時、母が静かに神さまに祈っている姿を見ました。それは非常に崇高な母の姿でありました。祈る母の姿は言葉なくして私に大きく語りかけました。その母の祈りの姿を一生忘れませんが、去年の十月六日に九十四歳で眠るようにして天に召されて行きました。母は私に祈りの姿を残して呉れました。私は神さまの前に本当に悔い改めて母に詫びました。「お母さん、御免なさい。本当に生まれて来ないほうがよかった、なぜ生んでくれたのか」と大変母を苦しめたのですから、私は母に心から詫びてクリスチャンになったことを報告しました時、母は心から喜んでくれたことを今でも懐かしく思い出します。

（次号へ続く）

★新刊特報★

海老沢宣道先生畢生の新著

「神」「主イエス」に続く第三部作

「聖霊に就ての黙想」

ペンテコスの時節必読の書

B6判一六〇頁　価一、四〇〇円

発行　白夢荘

発売　キリスト新聞社

海老沢宣道の新書

神に就いての黙想

B6判、150頁、価1,300円　〒240円

神との生きた対話・交わりを願いつつ綴られた信仰の随想。老熟した著者が現代の教会に問題提起しつつ語りかけるメッセージ。

発売所　キリスト新聞社

取　次　日本クリスチャン・アシュラム連盟